

令和7年（2025年）も既に1ヶ月を経過しました。時が過ぎるのは歳を取るごとに早くなります。1月10日の新年賀詞交換会でも申し上げました通り、本年は巳年であります。へびは脱皮を繰り返して成長していくものと存じます。総領事館としても「絶え間ないカイゼン」を旨として精勤して参ります。

2025年、マレーシアを含むASEAN諸国が激動の世界をどう乗り切っていくのか、ということは我々にとって大きな関心事項です。ASEAN議長国となったマレーシアのアンワル首相の采配にも注目が集まると思います。東南アジア研究の権威であるアンソニー・リード教授の著書「世界史のなかの東南アジア」の副題にあるように「歴史を変える交差点」である東南アジアは今後も、この激動の世界の中で大きな影響力を持っていくことになると思います。

我が国はマレーシアとの更なる関係強化を喫緊のものと考えており、それこそが先月、石破総理がマレーシアとインドネシアを就任後初の二国間訪問国として選んだ理由です。今回のマレーシア訪問では、特に経済分野では①サプライチェーン強靱化やレアアース開発分野での協力で一致し、②二酸化炭素回収・貯留やアンモニア発電、サラワク州等の水素、LNG等の協力の推進を確認し、また、③アジア・ゼロエミッション共同体に係る協力を一層強化することでも一致しました。また、防災分野では、④日本の強みを活かし、マレーシアの防災・減災対策への協力・連携で一致しました。

今回の首脳会談での合意内容などがペナンに住む我々にどのような具体的な影響をもたらすかは現段階では明らかではありません。確実に言えることは、日本とマレーシアの関係は、私が30年以上前にクアラルンプールに在勤した時代よりも格段に成熟したということです。一昨年、「包括的・戦略的パートナーシップ」に両国関係が格上げされたことはその証左であります。我が国と同様、成熟した民主主義国であるマレーシアとは、首脳レベルにおいて、法と支配にもとづく自由で開かれた国際秩序の維持・強化につき、引き続き連携していくことで一致しています。これは、マレーシア建国以来人と人との関係を構築してきた我々の先人の賜物であります。私共は、先人の努力を無にすることなく、上記のような大きな流れの中で、在留邦人・日本企業の皆様のためになる活動を確実に、また、積極的かつ斬新に実施してまいりたいと存じます。

新年の活動は1月4日のMJS新年会が皮切りとなり、昨年12月の「ペナン秋祭り2024」関係者の方々とも交流できました。今後、若い力も借りながら、当地での日本文化紹介などを推進したいと考えています。7日にはペナン州議会のクマレサン議員の来訪を受け、タミールの祭典ポンゴルへの招待を受けました。残念ながら当日は欠席となったのですが、総領事館として当地の多彩な文化を理解していくという姿勢には変わりはありません。10日には、当地E&Oホテルにて日系企業の皆様を中心にお招きして「新年賀詞交換会」を挙行了いたしました。ご多忙のところ、88名

の皆様のご出席を賜りました。皆様の企業活動を含めて改めて目を開かされることが多く貴重な機会となりました。

11日には、アンワル首相も挨拶をしたペナンLRTの起工式に参加しました。2031年開業予定のLRTは交通渋滞緩和のための一つの切り札かと思います。ただ、完工までに乗り越えるべき課題もあろうかと思しますので、今後情報収集をしていきたいと思っています。13日には愛知県の時習館高校の皆様を事務所にお迎えして質疑応答を行ないました。当地での毎年の研修が有益な気づきに繋がっていくことを祈念します。同日はペナン合気道協会関係者のご訪問も受けました。14日には東方政策同窓会（ALEPS）の皆様にご訪問いただきました。当地で活発に活動をされている日本友好団体の皆様を繋いで相乗効果をもたらすことができればと思っています。同日にはペナン州立美術館を訪問しました。国際交流基金巡回展でも協力の経験がある同美術館と今後何らかの連携ができればと考えております。

17日には当地東レ様を訪問させていただき、プラスチック製造現場・コジェネ施設を拝見しました。日系企業の工場見学をさせていただく際にはいつも、製品水準の向上努力や顧客と向き合う姿勢に感銘を受けます。私共としても改めて襟を正し、ビジネス環境維持・整備の為にできるだけのことをしていきたいと考えます。18日にはペナン補習授業校にお邪魔して授業を拝見すると共に、書初めに参加しました。補習授業校は、ボランティアの皆様のご尽力によって100名を超えるお子さん達に日本語で教えておられます。ボランティアの皆様の熱意に応え、私共としても種々協力ができればと考えております。

19日・20日のペラ州・イポーへの出張では、日本人総会・昼食会出席、日本人墓地参拝、ペラ日本友好協会との夕食会出席、イポー市・福岡市の姉妹都市提携を記念して建設された日本庭園への訪問、日本スペリアー社様訪問、サガミ・インタストリー社様を訪問させていただきました。今後、ペラ州政府関係者に正式に面談する機会があれば、イポーにおける日本人の皆様の長年に亘る貢献について言及し、もし、日本人・日本企業の皆様の問題があれば解決を求めることにしたいと存じます。21日にはシンクタンク「ペナン・インスティテュート」を訪問しました。ペナン州政府によって設立された同団体は殆ど唯一の当地シンクタンクであります。今後、日本とペナンとの間の学術交流などで連携できればと思っています。

22日には当地極楽寺に訪問して住職と懇談し、拝観いたしました。25日に行われたライトアップで有名なお寺ですが、大乘仏教と上座部仏教が共存し、禅宗と浄土宗が融合するお寺のあり方は独特でした。日本とは、前代の住職が駒沢大学に留学したという縁があります。25日には市内の「武道アカデミー」においてマレーシア柔道連盟会長及び松岡JICA海外協力隊員とお会いし、真剣な稽古の様子を拝見しました。ペナンでの柔道の歴史も深く、日本との関係も重厚です。当地柔道コミュニティとは色々な形で連携していきます。26日には、23日の訪問に引き続いて歴史的

地区の邱公司の展覧会開会式に参列しました。福建地方から清朝時代に移住してきた華人には五つの大きな姓（クラン）がありますが、「邱」は最も繁栄している姓です。当地華人の文化を知ることはマレーシア／ペナンを知る一歩だと考えております。このような行事などに参加する中で、日本との繋がりを大切に思っている当地の皆様にお会いするのは大変嬉しいことであり、今後、このような繋がりを大事にしていきたいと考えております。

今後、ペナンのキーパーソンと在留邦人・日本企業の皆様をより良く繋げることによって、皆様共通の課題の解決あるいは日本とマレーシア／ペナンとの間のビジネス・文化交流の面での前向きな活動のお手伝いをする事は変わらぬ私の目標の一つです。そのためにも今後とも、様々な機会を捉えて在留邦人の皆様や当地の方々からのお話を広く、深くうかがっていきたく存じます。改めて皆様の後ご指導、ご鞭撻をよろしく願いいたします。